

令和元年度 バルツァ・ゴードル事業報告

奈良県福祉・介護事業所認証制度 認証を受けました。

10401：医療型障害児入所施設 / 10402：療養介護・短期入所 / 10403：特定相談支援事業所

看護療育部

令和元年度において看護療育部は、「質」「安全」「向上心」「経営意識」を基盤に業務実践を行った。

1階病棟、2階病棟、外来、は入所、(新入所、短期入所)他科受診対応、突然の退所、などの業務へスタッフ全員尽力を尽くし、時として人員が不安定の中、また業務量が膨れ上がる中で、懸命に試行錯誤しながら実践できたと考える。しかしスタッフ育成・養成に関しては、研修会への参加数が少なく伸び悩みの状況で、研修会への参画が参加しやすい環境・仕組みの変革による参加しやすい仕組みが求められている。

年々利用者の重症度は高まり、業務消化に際しスタッフの定着率にも影響を及ぼしている傾向にある。しかし

スタッフ人材確保に関しては、看護師の動向は危機なく保たれているに反して、介護スタッフの人材確保に関しては十分とは言えない状況である。予定では、外国人実習生の受け入れを考えられていたが、突然の新型コロナ蔓延状況で実現の可能性は低い。今後の外国人実習生制度へに期待を寄せている。

利用者数に関しては、新入所1名と死亡退所1名という状況。ベッドの稼働率としては、94%から95%を行き来している状況。

短期入所利用状況としては、前年度の利用延べ日数(735日)に対し今年度の利用延べ日数(756日)プラス21日増加となっているが、コロナ対応における今後の受け入れに期待はできない状態である。

利用者の重症化の傾向は徐々に訪れ、今後の業務・病棟改善など課題解決に向けての試みが求められる中で、スタッフへの目標面談でのスタッフの意識改革・向上心を高めてゆくことに期待する。

薬剤課

業務内容は以下の通りである。

- ①定期薬の調剤、監査、定期薬カートへのセット
- ②臨時薬の調剤、監査、払い出し
- ③医師への疑義照会
- ④医師定期処方箋発行業務の代行
- ⑤短期入所の薬の確認、セット
- ⑥外泊時持参薬の用意
- ⑦医薬品情報の収集(PMDAメディアナビ、SAFE-DI等)
- ⑧医薬品管理(在庫の確認、発注、返品、期限の確認、病棟ストック薬の見直し)
- ⑨棚卸し
- ⑩在庫額の集計
- ⑪期限切れ薬品の集計、廃棄
- ⑫感染サーベイランスの作成
- ⑬医療監査項目の整備
- ⑭医薬品業務手順の見直し
- ⑮外部研修会への参加
- ⑯メーカーによる医薬品説明会の調整
- ⑰院内勉強会の開催

一人薬剤師での業務であるが、常勤・非常勤薬剤師間での情報伝達を密に行うことができ、大きなトラブルなく無事終わることができた。病棟での薬剤のダブルチェック機能にも助けられ、ヒヤリ・ハットを最小限に抑えることができた1年であった。今後も薬剤師間での連携を深め、ヒヤリ・ハット及び調剤過誤ゼロを目指して業務を行っていく。

今年度は10月の消費税増税のため、薬価改定が年2回となったが、薬価改定に関わる業務は薬剤顧問にサポートしてもらい、定期薬調剤に影響する事なく日常業務をスムーズに行う事が出来た。

引き続きほかの医療スタッフと連携を深め、利用者さんのことを第一に考えた業務を行っていきたい。

栄養課

食事提供では、昨年度と引き続き大きな事故もなく無事終わることができた。厨房の人員体制については、委託業者側のことはあるがやや不安定なところがあった。新人栄養士の配属がされるが、年度途中の退職となっている。しかしながら、運営については、安定的に行われていたと考える。

施設側については、2名体制を確保してきたが、2月にパート栄養士の退職に伴い、その後1名体制での対応となっている。分担してきた業務内容を一つひとつ精査しながら、効率化を図る方策を検討しながらの対応を行ってきた。

(給食委員会)

<令和2年度の目標・課題>

- ・ゼリー食の課題に向けた取り組みの継続
- ・安心・安全な食事の提供
- ・栄養(再)評価及びNST運営の継続 等

前年に引き続き、管理職を交えた委員会構成。味見食や聞取りによる嗜好調査をとおり、日常的に食事に対する意見をとりまとめることにより、きめ細かい対応ができたと考える。参加している各管理職の協力もあり、日々の給食提供や行事等の対応もスムーズに行うことができた。

厨房委託業者には毎回参加してもらうことにより、お互いの信頼関係を築くと共に、積極的な意見交換が出来たと感じる。次年度も引き続き、積極的な意見交換を行いより良い給食の提供に努めたい。

訓練課

常勤セラピスト各々が自己研鑽することができた。また利用者様についての情報共有を行うことができた。平成31年度は1名の常勤PTが入職した。

対外的な発信として、作品展への参加等を行った。引き続き作品展への応募、学会等での積極的な参加や発表を継続していく。

他職種との連携

利用者様の生活について病棟職員とともにポジショニングや日常生活上の対応などについて検討した。

養護学校の先生方とも連携し、就学児の発達を促せるよう具体的に話し合い、共同して進めていきたいと考えている。

地域支援

(実習・見学ほか)

奈良県立高円高校(評議員)

東市地区社会福祉協議会(評議員)

(地域交流)

令和元年7月27日(土)納涼祭 74名

令和元年10月26日(土)バルツァフェスティバル 135名

令和元年12月14日(土)クリスマス会 123名

令和元年8月16日(木)東市高円の杜夏まつり出店

令和元年10月13日(日)鹿野園町秋祭り(神輿巡行)

令和元年2月7日(金)東市地区各種団体新年交流会

(寄付・助成金等)

事業名	名称	金額	適用
ボランティア活動支援事業	政策医療振興財団	80,000円	マットレスカート他
寄付金	森田記念福祉財団	1,000,000円	防災備品予定
イオンギフトカード	イオンイエローシート	86,100円	CDラジカセ他
施設整備費補助	奈良県	5,736,000円	非常用自家発電設備
保育環境改善等事業費補助	奈良市	500,000円	電解次亜水生成装置

平成31年・令和元年度 事業報告書

特別養護老人ホームサール・ナート

1. 基本方針

今年度は、人材確保・人材育成そして働きやすい職場づくりの3点を重点課題として取り組んできたが、介護人材の確保については十分な成果はなく、今後の大きな課題として残った1年であった。

事業的にも、デイサービス及びショートステイの稼働が上がらず、そこに輪をかけて世界的な広がりを見せる新型コロナウイルスの影響も大きく経営を圧迫する結果となった。次年度についても新型コロナウイルスの影響は甚大になると予測されるが、ご利用者様、ご入居者様そして職員の安全確保を最優先としながら、どう稼働率を上げ、安定経営を目指し取り組んでいくかが大きな課題である。

2. 事業目標

I 特別養護老人ホーム サール・ナートの重点（目標）課題

- ① 職員一人ひとりがご入居者様の立場を考えご入居者様、ご家族の思いをケアに活かせるようにする。また、多職種が話し合える場を持ちコミュニケーションを充実させチームケアの意識を高めるよう努めていく。

ユニット会議でケアについて話し合うことはできているが、担当者がケアの中心となりケアを進める上で、介護と看護の相談や連絡が遅れ十分な話し合いができず、ご入居者様への対応が遅くなることがあった。医療面において、サール・ナートで出来ること、出来ないことの判断が遅くなったことも、対応が遅くなった原因と考えられる。また、ご入居者様の骨折事故10件、服薬事故49件と多く、介助方法の見直しや業務の再確認を行い、介護の基本に立ち返る指導を繰り返し実施した。

家族様との担当者会議、日頃のご報告は適宜行うことができご指摘を頂くこともあったが連携を取り、ご意向をケアに反映することができている。ユニットの行事は2階7件、3階16件と昨年よりも開催することができ、ご入居者様、家族様共に喜ばれる姿が見られた。次年度は引き続きご入居者様のケアについて、担当者が中心となって進めることを基本軸に当事者意識を常に持てるようユニットリーダーの育成にも働き掛けていく。

- ② ご入居者様の高齢化や看取りケアの実施に伴い、認知症や医療の知識や技術・理解を深め、認知度の高い方や喀痰吸引等医療度の高い方のケアや受け入れが出来るよう、職員の育成に努める。

職員の個人目標に関して、取り組む姿勢が希薄な職員もいたが、目標へ取り組むことで意識の向上に繋がる職員もいた。外部研修9件、内部研修11件の実績だが、全職員は、参加できておらず、全体のスキルアップに繋がっていないのが現状である。認知症の研修、

喀痰吸引の研修は実施することができなかった。緊急時の対応の流れ、胃婁の方の受け入れ体制の整備を行い、昨年度取り組むことができなかったことを改善することができた。

未資格や未経験の職員には適宜面談を行い研修も実施したが、体制構築まで至っていない為、今後の課題として残った。また、褥瘡の発生と悪化が目立った為、基本知識や対策を養っていく必要がある。

③ 外国人技能実習生を受け入れ、ケアを通じてご入居者様の生活に関わり深いものとする。

今年度 11 月よりベトナム人技能実習生が 5 名配属された。日本語の言葉や文字のやりとりが難しい場面は多いが、指導體制を組み立てながら進めることができた。ユニットへの配属後、学校で学んだ内容と現実の違いに戸惑いも見られたが、毎日振り返りを行いながら、疑問を残さないよう継続して取り組み、ご入居者様の介助は、一つひとつ習得できてきている。生活面での問題は大きく見られないが、定期的に困ったことは無いか質問し不安の解消に繋がっている為、今後も継続して行う。

<栄養課>

① 栄養ケアマネジメントの取り組み

栄養ケアマネジメントを通じて、ご入居者様の栄養状態の把握を行うことができ、低栄養の予防に努めた。次年度は、他職種と連携し、ご入居者様一人ひとりの栄養状態の情報共有、改善、提案をより効果的に実施出来る様に努める。

② 献立作成にあたって

現状の食事サービスの把握を行い、質を落とさずご入居者様のニーズにあった食事サービスに出来る様に取り組むことができた。

今後もコスト管理を怠らず変化に富んだ楽しんで喜んでもらえる食事サービスの提供に努める。

II 短期入所生活介護（ショートステイ）の重点（目標）課題

① サービスの向上を目指す

ショートステイを利用されているご利用者様の多くは、サール・ナート及びかたののデイサービスを利用されており、共通したご利用者様に関しては、各部署と連携を行い、ご利用者様の心身や環境の変化、対応方法などの情報の伝達、共有に努めた。

ご家族様に対しては、ショートステイ利用時にご本人様に変化や介護面で変わったことが無いかの確認を行い、得た情報は各部署に伝達することで、ご利用者様の変化に対応ができ、結果的に、ご利用者様が満足出来るサービスに繋がられるように努めた。しかし、年間を通して至らなかった事も多くあった。ご利用者様に満足していただけるサービスが提供出来るように、今後も引き続き情報収集と共有に努める。

② 様々なニーズに応えるための環境整備

各ご利用者様の認知症による周辺症状や身体的状況など様々な状況に対応するため、居室内の家具の配置やベッドの向きなどを行い個々に合った環境整備を行った。

また、自宅やデイサービスで脳トレをしている方に対しては計算問題等の脳トレの提供や新聞や雑誌を提供することで個々に合った対応が出来た部分もあったが、1年を通して不十分な所があった為、令和2年度は、各部署との連携をいっそう深め、ご利用者様が安全・安心・快適に過ごしていただけるように努める。

③ 年間稼働率目標（90％）について

今年度の年間稼働率は80％と目標の90％には至らなかった。毎月の新規利用者は平均して4名～5名だったが、定期的な利用に至った方は少なく新規利用の方が継続して利用して頂けなかったのが一つの原因と考える。次年度は、もっと各事業所への広報活動を行い、新規利用者を獲得していく。併せて、新規の方が継続して利用して頂けるように家族様や各部署と連携をして個々に合ったサービスを提供していく。

Ⅲ 通所介護（デイサービスセンター）の 重点(目標) 課題

① 職員の資質の向上・満足度の高いサービスの提供

I 個々のニーズを把握し、ADLの維持・向上を図る体操やプログラムの充実。

担当者会議へ積極的に参加してご利用者様のニーズを聞き取り、個々のニーズに合わせた通所介護計画を作ることができた。ADLの維持・向上を図る体操やレクリエーション等については、12月よりマンネリ化を防ぐため、プログラムの見直しを行ったことにより、ご利用者様の満足度の向上を図れた。

II 認知症に対しての理解を深め、個々のペースで、安心して過ごしてもらえる場所の提供。

認知症に対しての理解を深めてもらう為の研修等を開くことができなかった。いなかったことは、であったが、一人ひとりが個々のペースで過ごせることができるようにその都度声掛けを行い対応することはできていた。ただ、職員によってはご利用者様に対しての苦手意識（知識不足）なことがみられることがあったので、今後の課題でもある。

認知症の方がサークル・ナートにきて落ち着いて過ごされているのを在宅でも継続して行える様に家族と連携を図っていく必要がある。

② 地域のニーズに即した事業の推進

I 地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等との情報共有や連携を密にし、

地域の在宅高齢者のニーズに対応したサービスを柔軟に提供する。

4月・5月に居宅事業所にアンケートを配り回ったが、返答してくれる事業所があまりにも少なかった。相談員との事業のつながりができてからは、いろいろな情報を聞き新規ご利用者様の紹介も徐々に増えてきた。また、他事業所が断っている方の受け入れを行うことで、新規利用にもつながっていった。毎月、実績周りの際に状態報告書を作り直接説明して渡すようにしている。そのことで情報を知ることが出来、個々のニーズを知ることにもつながっている。

また、サール・ナートを使っていない事業所にも地域の情報を聞きに回っている。

③ 運営基盤の安定化

I 地域の在宅高齢者のニーズを把握し、柔軟な対応を行うことで利用者増を図る。→ 上記と同じ

II 自事業所での役割を認識し、ショートステイや特養入所へスムーズに行えるように、各部署との連携の強化を図る。

デイサービスを使われていた方が入居できるように各部署と連携して4名の方が特養に入居することが出来た。デイサービスは元気な方が比較的多いが、入院等でADLが低下して自宅で生活することが出来なくなり、ショートステイを使い特養へ入居するという流れになっていた。ショートステイ・特養・ショートステイがあることはデイサービスの一つの強みでもあるのでこの流れは今後も続けていく。

④ 稼働率目標 【定員 29名】

稼働率 80% (平均 24名) 以上を目標に、毎月の営業活動を行う。

4月：54.1% (15.7名) 5月：55.8% (16.2名) 6月：55.8% (16.2名)
7月：53.0% (15.5名) 8月：54.0% (15.7名) 9月：56.0% (16.3名)
10月：55.5% (16.1名) 11月：50.0% (14.4名) 12月：48% (14.1名)
1月：46.0% (13.5名) 2月：47.0% (13.7名) 3月：45.0% (13.2名)

目標としていた稼働率には、及ばず1日平均のご利用者様が15名であった。毎月に1名以上の新規ご利用者様を増やすことが出来ていたが、下半期の稼働が入居・入院・コロナウイルスの流行等の理由で落ちた。

来年度も引き続きサール・ナートデイサービスセンターを知って頂く活動を行っていく。

⑤ 年間行事

4月	お花見	10月	運動会
5月	デイ喫茶	11月	焼き芋
6月	お買い物	12月	クリスマス会
7月	サール・ナート全体の夏祭り	1月	初詣
8月	夏祭り	2月	節分
9月	敬老週間	3月	春まつり（内容を変更）

年間の行事は、3月以外は予定通り行うことができた。3月は、コロナウイルスの為当初の予定していた内容を変更して行った。

行事以外にも、ボランティア（慰問）や施設全体の行事・クラフト・畑・新しいプログラム等を行い楽しんで頂けるようにした。来年度も引き続きしていき、新しい内容を増やしマンネリ化しない内容で楽しんで頂けるように努めていく。

IV ケアプランセンターの重点(目標)課題

ひとりひとりのニーズを把握し住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、ご利用者様の立場に立って公平中立に介護保険制度と関連する諸制度・サービスの利用方法や情報を適切に提供し、医療やサービス事業所その他関係機関との連絡調整、自立支援・重度化防止の視点に基づいた支援を行う事を目標に事業を行った。

受け持ちのご利用者様の状態はさまざまであるが、自宅での看取りを希望される方、訪問診療や訪問看護等の医療系サービスが必要な状態の方、年を重ねる事による心身機能低下、認知症の中核症状・周辺症状によりサービスの利用が必要な方などであり、どのような状態でも可能な限り住み慣れた自宅で暮らし続ける事が出来るように公正中立にサービスの紹介や調整を行った。

ご利用者様の多くはサービスの利用で現状の心身機能維持が精一杯である中、退院直後や状態の悪化等が見られた時に介護保険サービスを利用し状態の改善や回復によって介護保険サービスの利用を卒業した方が4名おられた。また、看取りの支援にもかかわる事ができ各関係機関との連携はもちろんのこと本人様や家族様の気持ちの揺れ動きにも寄り添い、苦痛を緩和してできる限り安楽に過ごせるように状態に応じた迅速な対応が求められている事を忘れずに今後も依頼が来た際は支援に生かしていく。

① ケアプラン作成数を一定件数確保し経営を安定させる

定期的な営業活動を継続し新規契約は24件で昨年度より8件減であるが毎月新規契約を獲得し月30件のケアプラン作成数の目標を達成できた。しかし、新規獲得数が減少している事を真摯に受け止め今後も新規依頼や相談があった時は

迅速な対応を心掛け安心感を持って頂き日々の営業を継続していく事で新規獲得につなげていく。

他市からの認定調査の依頼を今年度は32件行った。今後もケアプラン作成、サービス調整以外での収益を今後も上げる事ができるように依頼があった調査には出来る限り対応していく。

契約の終了については15件でその内訳は、ご逝去6名・施設入居5名（有料老人ホーム3名・老健1名・特養サール・ナート1名）・卒業4名（状態の改善等で介護保険サービスの利用を終了）であった。

ご逝去された6名の中には住み慣れた自宅で最期を迎えた方が1名おられ、医療と介護の連携によりご本人様の支援はもちろんであるがご家族様も含めた支援を行う事が出来たと考える。

現在受け持ちのご利用者様の中にも、訪問診療や訪問看護等の医療系サービスと介護保険サービスの利用で最期の日を自宅で迎えたいと希望されている方がおられる。主治医との連携・各サービス事業との連携等、ご利用者様やご家族様のご希望を確認しながら穏やかに日々を過ごせる支援を行っていく。



《納涼祭風景》



《夏祭り風景》

令和元年度 事業報告書

地域密着型特養

1) 特養入所の安定と継続

稼働率 96% 措置入所の対応で定員以上の受入も行ったが、年間で 386 日の空床があった（内 176 日緊急 S S で活用できた）年間退所者 11 名、入所者 10 名、実績データから約 200 日の空きを確認。計算上では入所までに平均約 20 日程度の空床があった計算になる。次年度も引き続き S S 空床利用を活用し退所後の入所までの空きを少なくできるよう努め、次年度は今年度以上に安定できるよう努める。

2) 人材確保と定着

常勤の退職者 8 名（介護 7 名 看護 1 名） 非常勤 7 名（介護 4 名 看護 3 名）

常勤の入職者 7 名（介護 7 名） 非常勤 6 名（介護 3 名 看護 3 名）

確保においては、人材紹介会社から 1 名 職員の紹介制度からの採用が 2 名。制度の活用に期待したいので職場内での周知を図る。定着では今年度退職のタイミングが重なり、補うために派遣労働者を多数雇用してしまったことが大きな課題。定着のための働きやすさ、やりがい作りに課題が残った。

3) 人材育成

全国個室ユニット推進協議会研修委員主催の研修でリーダー職員向け、中堅職員向けの各研修に参加。学んだ会議の進め方などを取り入れ実践している。施設内の各勉強会でも育成に取り組んだ。

4) 生活の質の向上を図る

季節の花を見に外出、施設内でも季節の行事（すいか割り、さんまを焼く）、またご家族様と一緒に年末大掃除をするなど季節を感じる行事を行うことで、ご利用者様の生活に活気を与えられた。時期によっては行事を自粛することもあったが、日常生活の中で体操なども実施できたことが良かった。

5) 栄養ケアマネジメントの取り組み

①栄養ケアマネジメントの取り組み

栄養ケアマネジメント作成における他職種との情報共有の機会を通して、ご利用者様の栄養状態の把握を行うことで低栄養の予防に努めることができた。今後も施設内の職員だけでなく法人の他施設で働く S T とも協働し多職種で課題の共有、支援方法の提案、具体的な改善を図り支援ができるよう努める

②献立作成にあたって

現状の食事サービスの把握を行い質は落とさないよう意識しながら、ご利用者様のニーズにあったサービス提供が出来るよう取り組んだ。様々な事情で変化するコスト管理に注意し、変化に富んだご利用者さまが楽しんでもらえる食事を提供できるよう今後も務める

6) 地域との連携

隔週で実施している元気アップ体操教室や地域の方への出前講座、夏季のボランティア体験事業の受入など引き続き取り組めた。また運営推進会議を通して施設内の活動報告も行うことができた。

短期入所生活介護

① 様々なニーズに応える環境整備

緊急SSの受入基準を施設内で見直すことで、サービス提供者としての理解と受入準備の再構築を図った。受入準備を整えることで支援する職員の精神的負担の軽減を行った。結果として緊急受入13件・空床利用176日。今後も緊急時の受入体制を整え空床利用して様々なニーズに応える。

② 質の向上

施設行事以外でユニット、フロアでの行事は3回と少なかった。日々のケアにおいてはラジオ体操や口腔体操、施設周囲を散歩するなどの時間を作ったが、様々なニーズがある中で計画的に支援することはできなかった。

③ 年間稼働率90%を目指す

年間稼働率83%で達成できなかった。ロングSSからの入所は3件で特養安定のために結果が残せたが、入所後のロングSS枠の活用がスムーズでなかったことが課題。職員の退職が続き介護力が不安定であった為、職員定着とロングSS枠の活用への対策を検討し達成できるよう努める

地域密着型通所介護

1) 地域との繋がりづくり

毎月定期的ボランティアとは繋がりが強化でき、ご利用者様との自然な交流もできてきた。しかし新規ボランティアについてはサービス事業者間での紹介依頼などの取組をしたが、新しい開拓はなく行事を通じた繋がり作りには課題が残った。

2) 自立支援に向けた取り組み

一人ひとりの生きがい作りでは、ご利用者様全員に対しての取組・実施ができておらず評価まで至っていない。ポイント自己管理については他者のポイントへの意識が向くことで広がりが見られた。

3) 認知症の方への受入れ体制の整備

認知症の周辺症状や他者との関係づくりなどから小集団・個別ケアの提供を行うことで変化が見える状況があった。しかしご利用者様のデイに求める環境やサービス利用について様々なニーズがあり個別ケアにおいては理解が困難な場面・改善が必要な場面も見られ課題は残ったが、今後も継続して取り組む。

4) 家族支援・ケアマネジャーとの連携と支援

丁寧できめ細かな報告・相談の結果、緊急時の対応や支援方法についての相談で協力して頂いた。ご家族からも日常での気がかり相談を受けるなど良い結果が得られた。担当CMとの連携では、様々な対応実績や過去の対応症例などの情報を意識して発信した結果、新規依頼時に先を見据えたサービス方針を整えて貰える機会が増加したことで、より質の高いサービス提供ができた。

5) 年間稼働率80%目標

併設事業所・他事業所でのSS利用で休みの方、その日数が増えたことが影響し、今年度の稼働率は74.6%で達成できなかった。休みが増えて利用人数の実稼働は下がっても登録数は安定していた為、新規契約数は前年度に比べて半分に減った。次年度は総合事業での受入定員・地域密着型通所介護での受入定員を見直すことで受入数を増やし、実稼働が安定するよう計画する。

社会福祉法人バルツァ事業会 曾津保育園 曾津保育園大宮分園

令和1年度事業報告書

法人所在地 : 奈良市鹿野園町1000番1号
 施設所在地(本園) : 奈良市八条3丁目904番地
 施設所在地(分園) : 奈良市大宮町2丁目1-17

1. 保育園の運営

- (1) 定員(本園) : 120名 定員(分園) : 20名
 (2) 一時保育 : 10名(ひまわり組)
 (3) 年齢別・月別入所児童数(各月初日現在)本園

年齢 月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
0歳児	標準	6	8	9	11	11	11	11	11	11	11	10	10	120
	短時間	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
1歳児	標準	24	24	24	24	23	23	22	22	22	22	22	22	274
	短時間	0	0	0	0	1	1	2	2	2	2	2	2	14
2歳児	標準	23	23	22	22	22	22	21	21	21	21	21	21	260
	短時間	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	18
3歳児	標準	26	27	27	28	28	28	28	27	27	27	27	27	327
	短時間	5	4	4	3	3	3	3	4	4	4	4	4	45
4歳児	標準	24	24	23	23	24	22	22	22	22	22	22	22	272
	短時間	1	1	2	2	1	3	3	3	3	3	3	3	28
5歳児	標準	25	24	24	24	23	23	22	23	23	23	23	23	280
	短時間	3	3	3	3	4	4	5	4	4	4	4	4	45
入園		18	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	23
退園		1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
園児合計		139	140	139	142	142	142	142	142	142	142	141	141	1694
延長保育	前延長	123	76	129	50	113	76	80	91	91	91	63	78	1061
	後延長	56	59	49	59	42	59	62	58	64	43	50	38	639
一時保育預かり		180	164	161	200	153	177	195	181	195	160	175	173	2114

※延長保育 前延長7:45~利用、後延長19:31~利用済

年齢別・月別入所児童数(各月初日現在)分園

年齢 月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1歳児	標準	5	5	6	6	6	5	5	5	7	7	7	7	71
	短時間	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	6
2歳児	標準	8	7	9	8	8	8	8	8	7	7	7	7	92
	短時間	0	1	1	2	2	2	2	2	3	3	3	3	24
入園		5	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	10
退園		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
園児合計		13	13	17	17	17	16	16	16	17	17	17	17	193

(4) 職員人員について

	園長	副園長	主任	保育士	常勤保育士	非常勤保育士	栄養士	調理師	常勤調理師	非常勤調理士	事務員その他	合計
4月1日在籍数	1	1	1	16	4(派遣0)	6(派遣2)	1				1	31
年間退職者				4	(派遣0)	1(派遣1)	1					6(派遣1)
年間採用者				1	(派遣0)	2(派遣2)						3(派遣2)
3月31日在職数	1	1	1	16	4(派遣0)	7(派遣3)					1	31(派遣3)

2. 保育実施状況

<保育内容報告>

乳児期は養護を中心とした保育とし、幼児期は教育を中心とした保育とした。

各年齢に応じた保育カリキュラムで保育計画を作成し、保育を行った。

<あいづ保育園大宮分園報告>

今年度は最終、2歳児10名、1歳児7名 計17名である

(4月以降、2歳児10名のうち3名は転園・7名は會津保育園へ異動する事となる)

幼稚園の行事や地域交流にも参加させて頂き、異年齢交流も行っている

【障害児保育の取り組み】

<現状・対象児>

・診断がついている子どもは4名(5歳児:3名 4歳児:1名)

<要観察児>

保育をする中で、気になる子どもがいる為、慎重に子どもの家庭や保育園の様子を情報交換する。

保護者の思いに寄り添いながら子どもの発達に合わせて支援を行い、支援施設や制度を使いながら就学に向けてつないでいく

① 対応

・療育相談だけでなく、保護者の思いを組み入れながら日々の保育を行う。

奈良市の巡回相談も定期的に行われ進めている。支援施設の受け入れ幅が狭い問題点は奈良市としても重要課題としている

② 協力、団体 施設

S T→ 佃クリニック・フラワーテル

O T→ リハビリセンター・ 東大寺整肢園・ラブリー・フラワーテル

<一時保育>

R1年度は、年間2100人を超える利用者を達成することが出来た。

(4) 外部講師の指導状況

英会話 体育教室 茶道 マーチング指導(5歳児のみ)

(5) 実施した特別保育事業状況

- ・ 延長保育促進事業・ 一時保育事業・ 世代間交流事業・ 地域活動事業
- ・ 夏祭り・ 移動動物園

4. 健康管理状況

(1) 園児

内科 年2回 歯科 年1回 眼科 年1回 (3・4・5・歳児)

耳鼻咽喉科 年1回 (3・4・5・歳児) 検尿 (3・4・5・歳児) 身体測定 (毎月)

(2) 職員

定期健康診断 検便 インフルエンザ接種

5. 非常災害危険防止等防災訓練の実施状況

避難・消火・通報訓練 (毎月)

6. 地域団体・施設・住民実施した交流事業

期 間	交流団体・施設名	内 容
R1年6月	移動動物園	地域の方々と交流
R1年8月	夏祭り	地域の方々と交流
R1年度4月～3月末	地域の方の奉仕支援	茶道教室

7. 苦情処理受付状況

苦情受付件数4件 苦情に対する結果は改善・解決済み。

8. 音楽研修

① ミューズ音楽研究所： 小林先生よりマーチングの研修を受ける (年間)

同音楽研修の集大成として、マーチングカーニバル (大阪城ホール) に参加

② ピアノスキルアップ講座： 主任はじめ講師を選出した。全職員のピアノスキルに応じて

課題を考え、午睡中に個々にあった方法を見だし練習し、この繰り返しを一年行った

今年度の対象者は2名。園の行事等に参加し、ピアノ発表が出来た

次年度も継続的に新人の育成に工夫をする予定である

令和1年度事業報告

會津生駒保育園

1. 総括

今年度は熱中症対策として7月に運動会を行った。そのことで他の行事の開催時期も見直した結果、2月に行っている生活学習発表会を12月に行った。2月はインフルエンザ流行期と重なり、欠席せざるを得ない園児が毎年、数名いたが今年度は欠席者もなく無事、終えることが出来た。運動会においては開催場所もグラウンドから体育館に変更したことで競技も見直したが見劣りするともなく、熱中症の心配もないこともあり保護者の方々には好評であった。12月までに大きな行事を終え、残りの3カ月はゆったりと過ごす時間ができ進級、入学前の大切な時期に充実した日々を過ごすことが出来た。また、今年度は保幼小の交流会等に積極的に参加した。近隣の小学校の参観に出向き、卒園児の様子を見ることが出来た。5歳児クラスは校区内の保育園と近隣の公園で交流を図り、校区内の小学校行事にも参加した。次年度も引き続き保幼小の交流には積極的に参加し卒園後の卒園児の見守りや情報の共有に努めたい。

また、今年度も生駒市の子ども子育て支援の活動の「赤ちゃんの駅」や拠点事業、集いの広場「すくすく」を地域支援の活動として積極的に推し進めてきたが利用者は少なく今年以上に周知していただくための努力が必要となる。

今年度の終盤にはコロナウィルス感染症の影響で3月に行われる行事の中止や内容が大幅に変更されることとなった。このような突発的なことにも臨機応変に対応できる体制の強化を図る必要性をひしひしと感じた。

2. 保育園の運営

(1) 令和1年度職員配置(令和2年3月31日現在)

施設長	1人
主任保育士	1人
副主任	1人
保育士	16人(常勤11人、非常勤3人、派遣2人)
保育補助	1人(非常勤)
嘱託医	2人(小児科 歯科)

(2) 令和1年度の入所児延人数は次の通りでした。

0歳児 96人	1歳児 142人	2歳児 144人		
3歳児 144人	4歳児 156人	5歳児 156人	合計 838人	

(3) 実施した特別保育事業

1. 延長保育事業 延長保育の利用人数は延 579人で、前年比 217人の増加でした。
2. 一時預かりの利用者数は 993人で前年度と比較すると 341人減少しました。

3. 園児の処遇

園児の健康管理は毎月の身体測定と、年2回の内科検診を実施し、歯科検診は5月に実施。尿検査を6月に実施。視力検査を12月に実施した。また生駒市保健師による聴力検査を行い園児の健康管理を図った。

園児の栄養管理は給食会議を毎月開催し園、委託業者と連携し園児の栄養管理と健康管理に努めた。

4. 職員研修

令和1年度の職員研修は内部研修を11回、外部研修は31回に合計36人の職員が参加した。養成校からの保育実習は9・11・12・1・2月に6校8名の学生の受け入れを行った。

5. 防災・防犯

(1) 防災訓練

1. 児童福祉施設最低基準による避難・消火訓練は毎月実施した。
2. 消防法による消防訓練を生駒市消防署の指導のもと、7月に実施した。
3. 消防設備点検を5月、11月に実施した。

(2) 防犯訓練

1. 生駒市警察署員・生駒市防災安全課による安全講習を2月に実施した。
2. 生駒市防災安全課・交通指導員による交通安全教室を11月に実施した。
3. 生駒警察による外部からの不審者侵入対応訓練を10月に実施した。
4. 生駒警察署員・少年補導員による防犯紙芝居を5月に実施した。

6. 地域との関わり

令和1年度の地域支援の取り組みは、園庭開放および親子教室を開催した。

拠点広場事業「すくすく」として地域の親子の場として保育室を提供した。

また、中学校からの職場体験の受け入れを行った。

(1) 園庭解放 毎週月曜日 10:00~12:00

(2) 親子教室 子育て中の保護者の皆様を対象とした親子教室を開催した。

開催月は、4月・5月・6月・7月・11月・12月・1月・2月の第2・第4水曜日に開催した。(※3月はコロナウィルス感染症の影響で中止)

(3) 中学校職場体験

生駒市緑が丘中学校	3名	7月9日~11日の3日間
生駒市立大瀬中学校	2名	11月6日~8日の3日間
生駒市立光明中学校	3名	11月13日~15日の3日間

7. 苦情解決

令和1年度の苦情は寄せられませんでした。

令和元年度 會津老分保育園事業報告

1. 保育園の運営

(1) 令和元年度職員配置(令和2年3月31日現在)

園長	1人	保育士	17人	保育補助	3人	嘱託医	2人
主任保育士	1人	非常勤保育士	2人	調理員	5人	その他	2人

(2) 令和元年度の入所児童数の延べ人数 ※前年比12人減

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
1歳	18	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	260
2歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
3歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
4歳	23	23	23	23	22	22	22	22	22	22	22	22	268
5歳	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300
計	126	130	130	130	129	129	129	129	129	129	129	129	1548

2. 職員研修・健康管理

(1) ○外部研修への参加

子育て	自己評	保健	接遇	人権	食育	救急	保育	発達	音楽	造形	防災
4人	1人	2人	2人	4人	2人	2人	4人	3人	1人	1人	3人

○キャリアアップ研修 (専門リーダー6人・分野別リーダー4人)

乳児保育	幼児保育	障害児保育	食育・アレルギー対応	保健衛生・安全対策	保護者・子育て支援	マネジメント
7.5H2回-1人	7.5H2回-1人	7.5H2回-1人	7.5H2回-1人	7.5H2回-1人	7.5H2回-1人	7.5H2回-1人

○園内研修の実施

4月	アレルギー対応 運動補助の仕方	8月	発達支援 リトミック	12月	家庭支援 運動遊び(DVD)
5月	嘔吐感染症 不審者対応(さすまた)	9月	避難訓練強化 リトミック実践	1月	アレルギー 室内遊び
6月	プール救急法 絵画技法	10月	事故防止 冬の外遊び	2月	保育環境 くもん(実践)
7月	熱中症対策 手遊び	11月	嘔吐感染症復習 絵画技法	3月	事故防止復習 運動会に向けた遊び

○職員会議(毎月)、各委員会会議(随時) 各会議の実施を行うことで保育を円滑に進められた。

(2)職員の健康管理

○定期健康診断(年1回)を実施 ○細菌検査(年2回) ※乳児担当保士は毎月実施

○インフルエンザ対策として流行期前(11月)に予防接種を受けた。

3. 園児の健康管理・衛生管理

毎月	身体測定(全園児)	5月	歯科検診(2~5歳児)	1月	聴力検査(4.5歳児)
6,10月	内科検診(全園児)	5月	尿検査(3~5歳児)	1月	視力検査(4.5歳児)

4. 給食・おやつ取り組み 委託業者：名阪食品株式会社

月1回の給食会議を行い、献立改善についてや行事食提案等、安全、安心、楽しい食事の提供が出来た。

5. 地域との関わり

○保幼小交流会(老分幼稚園、いちぶちどり保育園、老分小学校)

4月	打合せ	9月	一年生授業見学	1月	校長先生のお話会 図書室見学(老小)
5月	みんなで交流会しよう(老小)	10月	ハロウィン楽しもう(ちどり)	2月	給食体験(老小)
6月	夏の遊びを楽しもう(老幼) ふれあい遊び(いちぶ)	11月	公園で秋の自然を見つけよう 一年生授業見学 仲よし秋祭りで一緒に遊ぼう(老小)		ドッチボールを楽しむ(いちぶ)

○汽車乗車体験(10月)4.5歳児

○地域の行事 どんどこ祭り(8月)年長児 25名 いこいこまつり(11月)年長児 25名参加

○職業体験受け入れ(11月)南中学校3名、大瀬中学校3名

○施設見学(千葉敬愛短大、帝塚山大、白鳳短期大、京都文教短大、奈良佐保短大他)8校

5月	1人	6月	3人	7月	1人	8月	6人	9月	1人	11月	1人
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	----

6. 苦情対応

○ご意見BOXによる苦情や要望 2件 (保育士の対応)

7. 事故・災害への危機管理

(1)各種訓練の充実を図る ※各関係機関と連携し訓練を行う

毎月	避難・消火・地震訓練	7月	不審者対応訓練	2月	通報訓練
6月	通報訓練	10月	交通安全教室	2月	防犯教室

(2)保育環境の整備

○避難倉庫購入 ※機能強化費にて対応

○FEクリーン水(電解次亜水)の購入 ※新型コロナウイルス感染症対策補助金にて対応

※大規模な修繕工事なし

8. 実施した特別保育事業

(1)延長保育事業 午後6時30分～午後7時30分 ※前年比388人減

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
158	142	143	198	146	162	168	156	145	171	142	175	1906人

(2)一時預かり保育事業 月～金：午前8時30分～午後4時30分 ※前年比382人増

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
半日	23	27	16	28	20	29	44	35	42	38	30	33	365人
1日	70	55	65	58	37	56	58	57	59	104	121	95	835人
延べ	93	82	81	86	57	85	102	92	101	142	151	128	1200人

(3)心身障がい児保育事業

2歳児クラス1名 (加配保育士1名) ※障害の程度や年齢からみて加配の配置を行った。

(4)子育て支援拠点事業(こもれびひろば) 毎週：月・水・金9:00～14:00まで

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
組	1	8	11	8	7	6	14	4	11	6	21	0	97組

※3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休業

(5)親子教室(0歳コース毎月第2金曜日・1.2歳コース毎月第2水曜日) 10:00～11:00まで

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4組
1.2歳	0	0	0	7	4	5	4	2	5	0	27組

※3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休業

9. 総括

生駒市においては待機児童が解消していない状況であり保育園のニーズは高い。待機児童と在宅子育て支援に向けて一時預かり保育の周知と受け入れに力を入れたことで利用数は増加し目標数を達成することができた。在宅子育て家庭にとって身近に感じられる場所の提供をしていきたい。今年度から「保幼小交流」に新たに取り組み地域との関りが増え、就学に向けて小学校との連携を図ることができた。

全国的に保育士の不足が問題になっているが保育士の確保が入所児童の増加に直結することから、保育士の離職を防ぐことが重要であり、保育士の業務の効率化をさらに検討することも必要であると考えます。新入職者は2名であったが保育の質の確保という観点から中堅保育士の園内研修の充実・強化を行った。また、保育士の確保は年々厳しい状況にあるため、見学者へのアプローチを丁寧に行うことも大切である。

平成31年・令和元年度 事業報告書

枚方市地域包括支援センター サール・ナート

平成 31 年度事業目標

計画通り業務遂行し、第 5 圏域の地域包括ケアシステム構築を進める。

I. 包括的支援事業評価報告

計画にあげた予定事業 1～11 は全うし、計画内容の詳細は毎月事業所内会議で検討し実績を振り返ることで課題を抽出し、令和 2 年度計画へ反映している。これら事業は、PDCA サイクルを基本に継続していることで、関係機関とのネットワークも機能性が増し、第 5 圏域の地域包括ケアシステム構築は着実に進められていると感じている。所感だけでなく、2019 年度枚方市による実地指導(包括的支援事業)でも開設後の運営経過で最良の評価を更新できた。また、高齢者人口の増加に伴う総合相談件数や、相談内容の複雑さも昨年度より増しておりそれらに対応しながら、計画通り事業遂行できたのは、今年度も職員が変わらず定着していることと、職員個々が意欲的に協働に努め、事業に取り組んだチームワークの良さが目標達成の要因であった。

II. 指定介護予防支援事業報告

介護予防ケアマネジメント《介護予防支援(予防給付費)及び介護予防ケアマネジメント(枚方市の総合事業費)》件数については、前年度に比し対応件数は下表の通り横ばい。高齢者人口の増加からこの件数も自然に上昇するところを件数維持しているのは I の包括的支援事業による効果もあると考えたい。

直接担当は平均 141 件/月、委託は平均 190 件/月で、そのプラン管理と指導業務は管理者も R2 年 3 月現在 35 件担わざるを得ず、包括的支援事業遂行への圧迫感は続いている。

上記、現状を踏まえ、枚方市に対して人員の増員を要望しているがなかなか良い回答を得るまでには至っていないが、引き続き次年度も枚方市に対して人員の増員の要望を続けていく。

<介護予防支援計画・介護予防ケアマネジメント月別実績/H31年4月～R2年3月>

	4	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3
直 プ ラ	135	146	145	138	141	147	143	145	143	140	141	133
委 プ ラ	194	191	191	194	190	195	197	196	189	189	182	183
合計	329	337	336	332	331	342	340	341	332	329	323	316

<介護予防支援計画・介護予防ケアマネジメント年度別実績総数>

	26 年度	27年 度	28年 度	29年 度	30年 度	R元年 度
直件数	1555	1505	1418	1439	1739	1697
委託件数	1676	1919	2237	2347	2265	2291
合計件数	3229	3424	3655	3786	4004	3988

(参考) 5 圏域高齢者 (65 歳以上) 人口の推移

	H23年1月	H28年1月	R2年2月
小学校区(高陵・中宮北・山田・山田東・交北)	6364人	7581人	7947人